

町田市議会議員・若者育成の街

# 吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野2-2-2 2

☎042-724-2171

「保守の会」派室

自宅042-795-7361



## 大型ショッピングモール開業の周辺影響

今年の秋には、東急南町田駅の大改装があり、近隣でも随一の規模となる大型ショッピングモールが隣接して再編成され、これまた市立公園がそのモールと一体化される様相となります。東急電鉄、東急グループにとっても一大事業の一つになっています。

そうした華やかさの一大空間ができる一方、その沿線駅周辺の商業環境がどのようになるか、気になっていました。そこで、市内の東急沿線の商店街と商店への影響は？という質問を議会で発しました。行政の答弁では、これから東急南町田駅が完成する段階であり、影響は不明であり、現在まで調査を行っていないということでした。私が質問通告を行った後、すずかけ台駅、つくし野駅等の商店会会長から状況の聞き取りを行ったとの説明でしたが、明白な状況を説明する内容ではありませんでした。

私はすでに閉店した店舗があること、店舗経営者にとっては、建物の契約更新の可否、雇用見込みの従業員への事前通告が必須です。他方では、店の閉鎖は消費者にとっては突然の事態となりますが、責任追及は不可能であり、結果、顧客の多くは東急南町田駅のモールに吸収されることが予測されました。成瀬・町田駅方面も大きく影響があるでしょう。(続く)



この空き店舗状態でも、商店街です

## 小田急多摩線延伸の遅れ

### 第2回定例会質問：小田急多摩線延伸の遅れ

これまで町田市は、相模原市との「小田急多摩線延伸の促進に関する覚書」において、リニア中央新幹線の開業に合わせて2027年、小田急多摩線延伸の実現（開業）を目指した取り組みを進めるとしてきました。一方で、現実には自らが調査した内容を現した資料で、「開業想定年次：令和15年（2033年）」と記載し、今後はその年次を目標にこれから様々な施策を提起することになります。



### 吉田つとむが議長時代に、促進協議会で挨拶

私は以前から、2027年にリニア中央新幹線が開通すること、そして相模原市橋本にリニア地下駅ができることに大きな期待をかけています。これまで、小田急多摩線延伸はその採算性を国の交通審議会で指摘されている段階であり、その回答として、町田市と相模原市が、今回の「小田急多摩線延伸に関する関係者会議 調査のまとめ」として現状分析を発表したものと解釈されるものです。当初の目標は、多摩市内の唐木田駅から相模原市のJR相模線の上溝駅に到達する区間の延伸を見込んでいましたが、採算性の向上の観点から、区間を短縮して、JR横浜線相模原駅までの延伸を新たな建設目標とする方向になります。

★ 政党無所属・市議会は保守の会 mail : [yoshidaben@gmail.com](mailto:yoshidaben@gmail.com)

URL <http://j-expert.jp/> 動画 <http://jp.youtube.com/yoshidaben>



メール送信

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ（自宅）

町田市議会議員 **3期連続トップ当選**

# 吉田つとむ

若者育成の街◆取材・記事作成・総合編集



左上はブログ  
右上は新規の  
ビジュアルサイト



インターン生募集中

## 中学校給食試食実験動向を地元紙が詳報

今回は、全国紙メディアが行政の発表を他の取材もせず、「中学校給食無料試食会事業」として予算案に盛り込まれたとする記事掲載の在り方への批判を行いました。



他方で、地元の武相新聞（読売新聞に折り込み）は、この間の議会や議員の活動取材し、メディアとして公正、かつ、記者の取材の足跡を見せる記事を掲載しました。（6月15日発行分）その中で、市議会の保守の会が、「中学校給食の無料試食実験」を同紙（本年年元旦号）に意見広告で発表していたこと、3月議会の代表質疑で白川哲也幹事長がその実施を求めていることを記事にまとめました。さらに、その記事では、昨年12月に小学校と同じような中学校給食の実施を求める請願を不採択としたこと、本年3月の議会では、その運用改善を求める請願を採択にしたことを時系列で紹介しています。

その後、今回の無料試食会予算に関して、保守の会（吉田つとむ）、公明党（山下哲也代表）、まちだ市民クラブ（森本誠也代表）がそれぞれに見解を示す意見を紹介しています。

**中学校給食無料試食会予算の審議結果は続報**

## ヤゴの救出作業に参加

**つくし野ビオトーププロジェクト**（小池常雄代表）が地域主体の活動の一環として、「体験的環境学習活動～都市近郊に暮らす子供たちへ地域からプレゼント～」を目的にヤゴ救出イベントを開催したものです。つくし野小学校に約100人の参加者が集いました。「つくし野ビオトーププロジェクト」の皆さんの説明・指導で、水位を低くしたプール（シーズン前に水を入れ替え）に入って、ヤゴを救出する楽しい時間を過ごしました。救出したヤゴは全部で704匹（アカトンボ700匹、シオカラトンボが1匹、ヤンマが3匹）でした。参加者がそのヤゴを分け合い、家族で育ててトンボに成長するプロセスを各家庭で学習体験する有意義な取り組みとなります。

参加者は同校の児童に限らず、近隣の児童・幼稚園児親子も参加していました。遠く市外から参加した親子もありました。これだけの体制をとって、ヤゴの救出活動を行っている例は極めて珍しいことなのでしょう。



知り合いの小学生からヤゴの成長とトンボになって飛んで行った話を聞かせてもらうことを楽しみにしたいと思っています。

★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧ください。